

木曽三川流域連携

なごやの水道は木曽川上中流域の人々の活動に大きく依存しています。将来にわたり良質な水源水質を確保するには、河川をはじめとする健全な水環境を守っていく必要があります。木曽三川流域全体で一体となって議論していくことが重要です。そのため、上下水道局ではさまざまな活動に取り組んでいます。

流域自治体相互の連携強化

平成22年に発信した「流域自治体宣言」を機に、木曽三川流域の自治体で構成する木曽三川流域自治体連携会議（P37参照）を設立しました。流域自治体が一体となって情報を共有し、水環境保全の方策について意見交換を行っています。



木曽三川流域自治体サミット

持続可能な地域経済の振興

上中流域を中心とした産業の活性化のため、木曽三川流域のPRや特産品の販売などを実施する木曽三川マルシェや、上中流域の生産者と下流域の仕入れ企業との商談会などを行っています。



木曽三川マルシェ

水環境保全に対する住民参加

お客さまの水環境保全への理解を深めるため、水源地で保全活動などを実施する「木曽川さんありがとう」などを行っています。また、住民の交流と水環境保全の意識醸成につなげるシンポジウムの開催や、ふるさと納税制度を活用した「なごやの水源・木曽三川流域連携事業寄附金」事業を行っています。



木曽川さんありがとう

環境活動

上下水道局では、事業活動に伴いさまざまなエネルギーを使用し、温室効果ガスを排出しています。温室効果ガスの排出は電力使用が最も大きな要因であるため、省エネルギー型機器の導入や、ポンプを使用しない自然流下による送配水範囲の拡大など、さまざまな削減策に取り組んでいます。また、すべての職員が環境に配慮した活動を実施するため計画を策定し、その結果を毎年「環境報告書」として公表しています。このような取り組みを通じて継続的に環境活動を進めており、その詳細は、上下水道局公式ウェブサイトでご覧いただけます。

国際協力

開発途上国の水問題の解決に向けて、日本の上下水道事業者が果たす役割は大きく、上下水道局では、昭和53年から独立行政法人国際協力機構（JICA）と協力し、職員の海外派遣や海外からの研修員の受け入れを行っています。また、中部地域の民間企業や関連団体と連携し、地域の産業界の活性化にもつなげる国際的な水ビジネスの展開を支援しています。



研修員の受け入れ